

「お金」を面白いほど引き寄せる黄金ルール

23. 豊かになりたいなら、まず“金持ち”のように考える

一生懸命に働いても豊かになれないと不満を言う人は、心の奥底でお金を望んでいないのです。

「こんなに一生懸命に働いているのに、どうして豊かになれないのかしら

こういうことを言う人がよくいますが、これは間違った考え方と言わねばなりません。どこが間違っているのか。「一生懸命に働けば豊かになれる」という考え方がそもそもおかしいのです。

一生懸命に働くことは大切ですし、評価できることですが、だからといって豊かさを保証しているわけではありません。豊かになるには、それに見合った考え方や行動をする必要があります。

では豊かになるにはどうしたらいいのでしょうか。

マーフィー博士はこう言っています。「やっとなんかやっとなんかだけのもので満足してはいけません。あなたがやりたいことすべてを、やりたいときに、やるに必要なお金全部をほしがるべきです」

この博士の言葉の中に「まじめに働いても、なぜ豊かになれないのか」という疑問への答えが含まれています。まじめな人がまじめに働いて豊かになれないのは、単に「それを望んでいない」か、あるいは「まじめさだけで豊かになれる」と錯覚しているからなのです。

たとえば、大きな借金を抱えた人が、返済のために朝、昼、晩、三つも仕事を持って働くのは賢明でしょうか。体を壊す確率は高くなり、そうなつたらさらに事態を悪化させてしまう。まじめに働けばいいというものではないのです。

お金にはお金自身が増える、という性質があります。多額の借金を背負わされるのは、この性質がマイナスに作用したからですが、同じ性質をプラスに働かせることを考える必要があるのです。

ところがまじめな人ほど「そういうことは苦手だ」という人が多いのです。そして「まじめに働いても豊かになれないのは、世の中の仕組みが悪いからだ」といった方向へ考え方を持っていこうとします。

そうではないのです。大きな富を手中にした人も、普通以上にまじめに働いています。ですが、彼らが豊かになれたのはまじめに働いたからではなく、それを望んで相応の行動をしたからなのです。この事実をじっくりと考えてみてください。
